

〔『未知への挑戦』とくしま行動計画〕 〔v s 東京『とくしま回帰』総合戦略〕の評価方法

1 基本的な考え方

『未知への挑戦』とくしま行動計画は、令和元年度から令和4年度までの4年間を計画期間として策定されたものであり、今回はその3年目の評価を行う。

「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間として「第2期」が策定され、今回はその2年目の評価を行う。

昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、計画改善見直しに向けた「委員からの提言」に重きを置く評価方法とする。

2 評価のポイント

現在、県では「新型コロナウイルス感染症」、「災害列島」、「人口減少」という3つの国難に的確に対応するため、「デジタル社会」および「グリーン社会」の実装を推進エンジンとして、「新次元の分散型国土」の創出に集中的に取り組んでいる。

そこで新たに、「DX」と「GX」に関連する項目を大括り化し、各分野の視点による「横串評価」を実施することにより、ポストコロナ新時代を見据えた、新たな県政運営の指針につなげる。

3 評価方法

(1) 評価の対象

行動計画：「令和3年度の実績及び成果」

総合戦略：「令和3年度の実績及び成果」

(2) 判定・評価の単位

ア 判定単位

行動計画：主要事業（637事業）

総合戦略：主要事業（263事業）

イ 評価単位

行動計画：主要施策（91施策）

総合戦略：具体的な施策（15施策）

(3) 判定・評価の基準及び手順

ア 判定

「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定する。

第1段階 主要事業ごとの「判定」		
A	B	C
主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 90%以上	主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要事業ごとの 数値目標の達成率の平均 80%未満

イ 評価

「数値目標」の達成率を基礎として、行動計画の「主要施策」または総合戦略の「具体的な施策」の達成率を算出し、次の区分のとおり、事務局が機械的な評価案を付す。

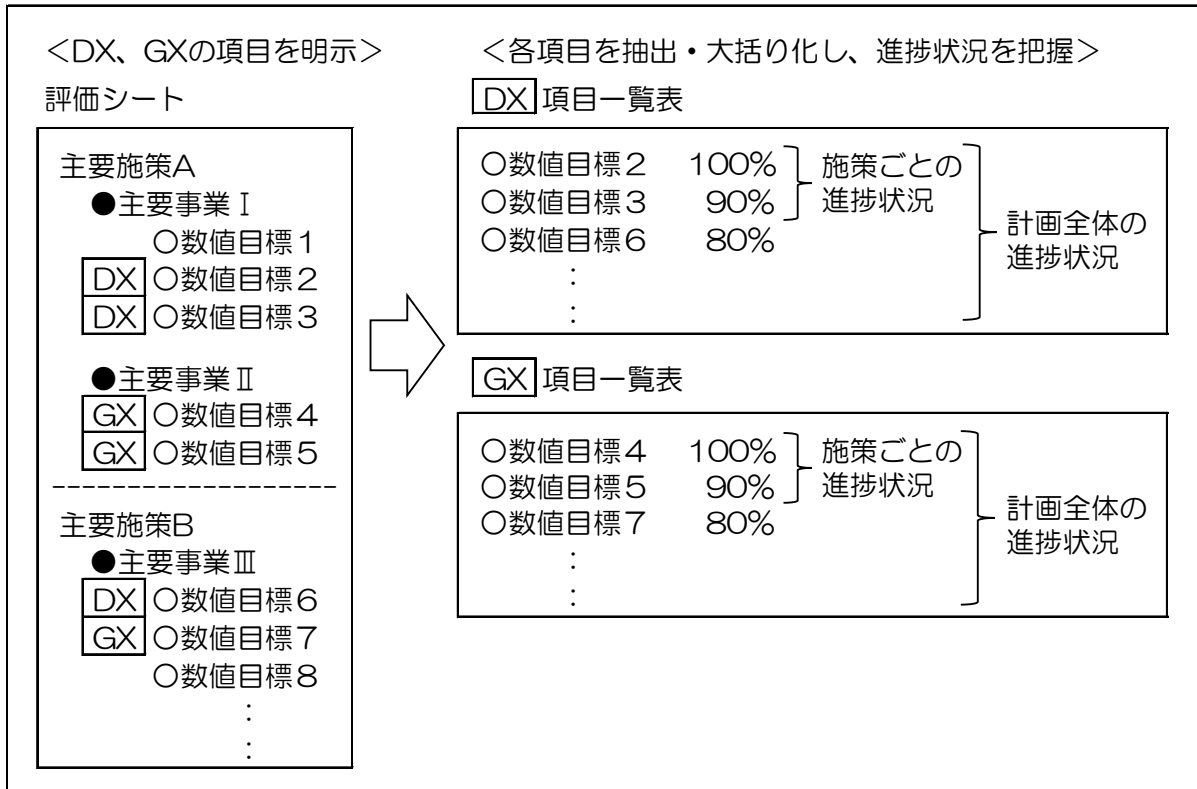
その評価案を参考にしながら、会議での議論を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で、評価を最終決定する。

第2段階 施策ごとの「評価」		
順調	要注視	要改善
施策ごとの 数値目標の達成率の平均 90%以上	施策ごとの 数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	施策ごとの 数値目標の達成率の平均 80%未満
委員の「改善見直し提言」を加味		

(4) 「DX」と「GX」の視点による横串評価

「DX」と「GX」に関連する数値目標に、「DX」または「GX」とタグ付けをし、当該項目のみを抽出し、大括り化した一覧表を作成する。

委員協議では、各一覧表により、計画全体での「DX」および「GX」の進捗状況を把握し、「改善見直しに向けた提言」に繋げる。



(5) 新型コロナ対応の確認と評価方法

昨年度に引き続き、新型コロナの影響を受けた事業については、「令和4年度行動計画への継続性」を考慮し、次のようにタグ付け（類型化）する。

委員協議では、事業の方向性を踏まえた上で、その実績と成果の確認を行い、「改善見直しに向けた提言」に繋げる。

- 影響事業の類型化
- A-1) 目標廃止：令和4年度計画では目標設定を廃止するもの
 - A-2) 延期・中止：事業等の延期・中止をしたもの
 - B) ニューノーマルの手法：数値目標の方向性は維持しつつ、
ニューノーマルの手法を取り入れたもの
 - C) その他（補完的な取組）：数値目標では測ることができない補完的な取組みをしたもの等

3 その他

行動計画と総合戦略の評価シートの統合は、行動計画の施策体系に総合戦略の主要事業を取り込む形で行った。このため、評価シート上、総合戦略の施策体系とは一致していない。

したがって、総合戦略の「具体的な施策」の評価は、行動計画の施策体系に沿って配置された総合戦略の「主要事業」ごとに協議した後、第3回の会議で「具体的な施策」ごとの評価をまとめて実施することとする。